

## 2008年原油価格動向について

2008年前半の原油価格は、中国を始めとするアジア、アメリカなどの需要増加、また投機資金の流入などにより上昇局面が続き、7月11日には中東情勢不安などによる供給懸念の高まりから、WTI 147.47ドルと過去最高値を記録した。その後は需要減退の見通しが強まり、またアメリカでの規制強化の動きの為投機資金が流出し、下落傾向に転じた。9月、アメリカを発端とする金融市場の混乱により世界景気の先行きが懸念され、原油価格の低下に拍車がかかる。12月には、一時WTI 33.87ドルを記録、最終的には44.60ドルで終了し、過去最高値を記録した7月から4ヶ月で30%まで下落した。

